

かきの黒い模様あれこれ

南信農業試験場

かきが橙色に色付いてくるにつれて、果実表面に黒いシミや模様のようなものが見られることがあります。表面が黒く汚れたようになるので、地元では「汚れ果」、「汚損果」、「汚染果」などと呼ばれています（以下、本稿では「汚染果」といいます。）大きくは、黒い模様だけで亀裂を伴わないものと、細かい亀裂または線状となる「条紋」の2種類があります。

はじめの黒い模様だけで亀裂を伴わないものには症状により2つに分けられます。1つは「黒点状」で、直径1～3mm程の円形の黒点が散在または集合して、果頂部から赤道部付近に多く発生します。2つ目は「雲形状」で、果頂部付近に比較的多く、不整形のうす墨を塗ったようになります。これらの症状は果肉には影響しません。

一方、細かい亀裂または線状となる症状として「条紋」があります。これは、長野県特産の「市田柿」には比較的多く見られるもので、果頂部から赤道部にかけて、無数の線状またはクモの巣状の亀裂が発生しその一部が黒褐色に変色して波線状となるものです。通常果肉には影響ありませんが、症状が激しいと果肉の軟化を伴うことがあり、腐敗したり、干し柿加工の際の皮剥きに支障が出ることもあるため注意が必要です。

これら汚染果の原因については、まだはっきりしていません。ただし、風通しが悪く、湿度が高い園、日照時間の短い園、除草が不十分な園などに多い傾向が見られます。園内環境の向上も軽減対策と考えられますので発生が多い園では、間伐、夏季剪定（徒長枝整理）などの管理が必要と考えられます。



「黒点状」



「雲形状」



「条紋」

担当者	島津 忠昭	電話番号	0265-35-2240
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[南信農業試験場ホームページへ](#)